

What is

Cambodian Mine Action Centre



内戦が終わった後、
「もうひとつの戦い」が始まった。

What is a

「悪魔の兵器」は、
なぜ、いつ作られたのだろうか？

Mine ?



「地雷」とは、戦争や紛争などの際に、敵の戦車や車両の進入を防いだり、敵を傷つけたりするために、主に地中に埋設される兵器のことを言います。人類はこれまで300種類以上の地雷を作ってきましたが、大きく「対人地雷」と「対戦車地雷」とに分けられます。

「対人地雷」は、人間が地面を踏むことにより爆発し、傷害をあたえるように作られています。敵を殺すことよりも傷つけることで、精神的・物理的ダメージを与える意味で、冷酷な兵器といえるでしょう。一方、「対戦車地雷」とは、車両や戦車ほどの重量がかかることによって爆発するものです。19世紀後半、アメリカの南北戦争のときに初めて「対人地雷」が使用されたといわれており、また、20世紀には両世界大戦で大量に地雷が使用された結果、今なお欧州諸国でも、ときに犠牲者が出ています。

しかし、現在の主な地雷被害国は、長い間内戦を経験してきた国々です。「地雷」は、戦争や内戦終結後も長年にわたって一般市民を殺傷する、まさに「悪魔の兵器」なのです。

世界中に埋設されている地雷は、1億個以上といわれ、アジアやアフリカを中心に65の国や地域で1日40人以上、年間1万5,000人もの死傷者を出しているのです。

一方、「地雷」とならび、爆発せず不発のまま現在に至っている「不発弾」もまた、人々の生命、生活を今なお脅かしています。空から投下された爆弾、地上戦で使われた迫撃砲、ロケット弾などの砲弾がそれです。

主な地雷被害国と埋設地雷数

国 名	個 数
アンゴラ	1,500万個
アフガニスタン	1,000万個
カンボジア	400～600万個
ボスニア・ヘルツェゴビナ	300～600万個
クロアチア	300万個
モザンビーク	300万個



対戦車地雷 (3段重ね)



大型不発弾



対人地雷の被害者

What is a Cambodian Mine ?

今なお数百万個の地雷が大地に潜むカンボジア。
毎年数百人の犠牲を生んでいる。

カンボジアで発見された地雷の種類

1. 対人地雷

A-Blast Mines



72 A (China)



72 B (China)



MB2B (VN)



MS 79 (VN)



M-14 (US)



PMD 6 (USSR)



NR 409 (Belgium)



PMN2 (USSR)



PMN (USSR)



PPM 2 (China or Germany)

B- Fragmentation Mine



POMZ 2 (USSR)



POMZ 2M (USSR)



MBV 78 A1 (USSR)



MBV 78 A2 (VN)



NOMZ 2B (VN)



F 40 (VN)

C- Bouncing Fragmentation Mines



OZM 1 (USSR)



OZM 3 (USSR)



OZM 4 (USSR)



OZM 72 (USSR)



PPMir (Czechoslovakia)



Type 69 (China)



M-16 (USA)



M-24A1 (USA)

D-Directional Fragmentation Mines



Model 123 (Thailand)



MB 41 (US)



Type 66 (China)



MON 50 (USSR)



MBH 10 (Vietnam)



MON 100 (USSR)

2. 対戦車地雷



TM 46 (USSR)



TM 57 (USSR)



TM 62 (USSR)



PTM DK (Czechoslovakia)



M-7 (USA)



M-4 (USA)

苦難のカンボジア近・現代史

アンコール時代、インドシナ半島の大部分に版図を広げた大王朝の栄華は、15世紀以降、たび重なるシャムとベトナムの侵攻によって衰退の一途をたどりました。1863年から一世紀近くフランスによる植民地支配を受けた後、遂に1953年に完全独立。その後10年間は平和と繁栄の時代でした。ところが、ベトナム戦争のあおりで国内はさまざまな勢力による内戦状態に突入しました。ベトナム戦争時の1967年、北ベトナムがはじめてカンボジア領内に地雷を敷設したといわれており、また、「ホーチミンルート」と呼ばれる北ベトナム～民族解放戦線の補給ルート（カンボジア東部）をアメリカ軍が空爆し、その時期投下された大量の爆弾が現在もなお、不発弾となってカンボジア東部の人々の生活を脅かしています。

また、クメール・ルージュ（ボル・ポト派）と呼ばれる共産主義勢力が台頭し、1975年に政権の座につくと、地方への強制移住・強制労働による餓死や、旧政府・軍関係者だけでなく多数の一般市民が罪もなく処刑された結果、わずか4年間で200万人以上の国民が死亡しました。

続いて、1980年代は内戦がさらに泥沼化していきました。北・西部のタイ国境地帯に追い詰められたクメール・ルージュは、最後の軍事拠点を地雷敷設によって防衛作戦を展開し、政府軍も地雷で包囲するなど、双方によって仕掛けられた大量の地雷が、今なお北・西部の国境地帯を覆いつくしています。北・西部に地雷が多く、東部に不発弾が多いカンボジアの状況は、こうした歴史によるものです。

カンボジアの地雷と不発弾

カンボジアに敷設された地雷や不発弾とはどのようなものなのでしょうか？

対人地雷はこれまで30種類もの地雷が発見されています。その大半が旧ソ連製と中国製のものですが、アメリカ製やベトナム製の地雷も使われました。旧ソ連製でもっとも多く使われた対人地雷はわずか600gです。上から4kg以上の重力が加わると安全装置がはずれ、瞬時に爆発します。対戦車地雷は主に6種類ほどが発見されています。そのなかでも多い旧ソ連製の地雷は、通常、車両程度の重量がかかることによって爆発します。なかには、これを数段に重ねて、その上や周囲に対人地雷を添えることにより、子供の重さで爆発させるなど、人間にも被害を及ぼします。また、カンボジアで発掘されている不発弾の多くは、全長1.5mもある500ポンド爆弾、ボールほどの大きさの子弹、それに迫撃砲です。これらの多くは南東部地域のスバイリエン、プレイベン、カンダールの各州で発掘されています。

カンボジア近・現代の歩み

- 1863年 フランスの植民地となる。
- 1942年 日本軍が侵攻。
- 1945年 日本軍の撤退後、フランスが再度支配。
- 1953年 シアヌーク殿下がフランス軍を破り、完全独立を宣言。
- 1960年 ベトナム戦争勃発。
- 1969年 アメリカ軍がカンボジア国内のホーチミンルートの空爆を開始。
- 1970年 アメリカ支援のロンノル將軍がクーデターに成功し、クメール共和国を樹立。シアヌーク殿下が中国亡命。内戦状態に突入。
- 1975年 ベトナム戦争終結
- 1975年 アメリカ、南ベトナム、タイの各軍が撤退し、ロンノル軍がボル・ポト軍に敗北。ボル・ポト政権（民主カンブチア）樹立。
- 1978年 ソ連支援のベトナム軍がカンボジアに侵攻。翌年、ヘン・サムリン政権（カンブチア人民共和国）樹立。タイ・アメリカ・中国支援のボル・ポト派はタイ国境へ撤退。
- 1982年 シアヌーク派・ソン・サン派・ボル・ポト派の反ベトナム三派連合がベトナム軍と交戦。内戦が泥沼化。
- 1989年 ベトナム軍がカンボジアから撤退し、カンボジア政府軍（シアヌーク派・フンセン派）がボル・ポト派の残党と交戦。
- 1991年 バリ和平協定が調印。
- 1992年 UNTAC（国連カンボジア暫定統治機構）がカンボジア入り。
- 1993年 立憲君主制のカンボジア王国が成立。シアヌーク殿下が国王に就任。
- 1998年 ボル・ポトが病死。翌年、最高幹部が投降し、内戦が終結。

「犠牲者ゼロ」をめざす、地雷除去への取り組み。

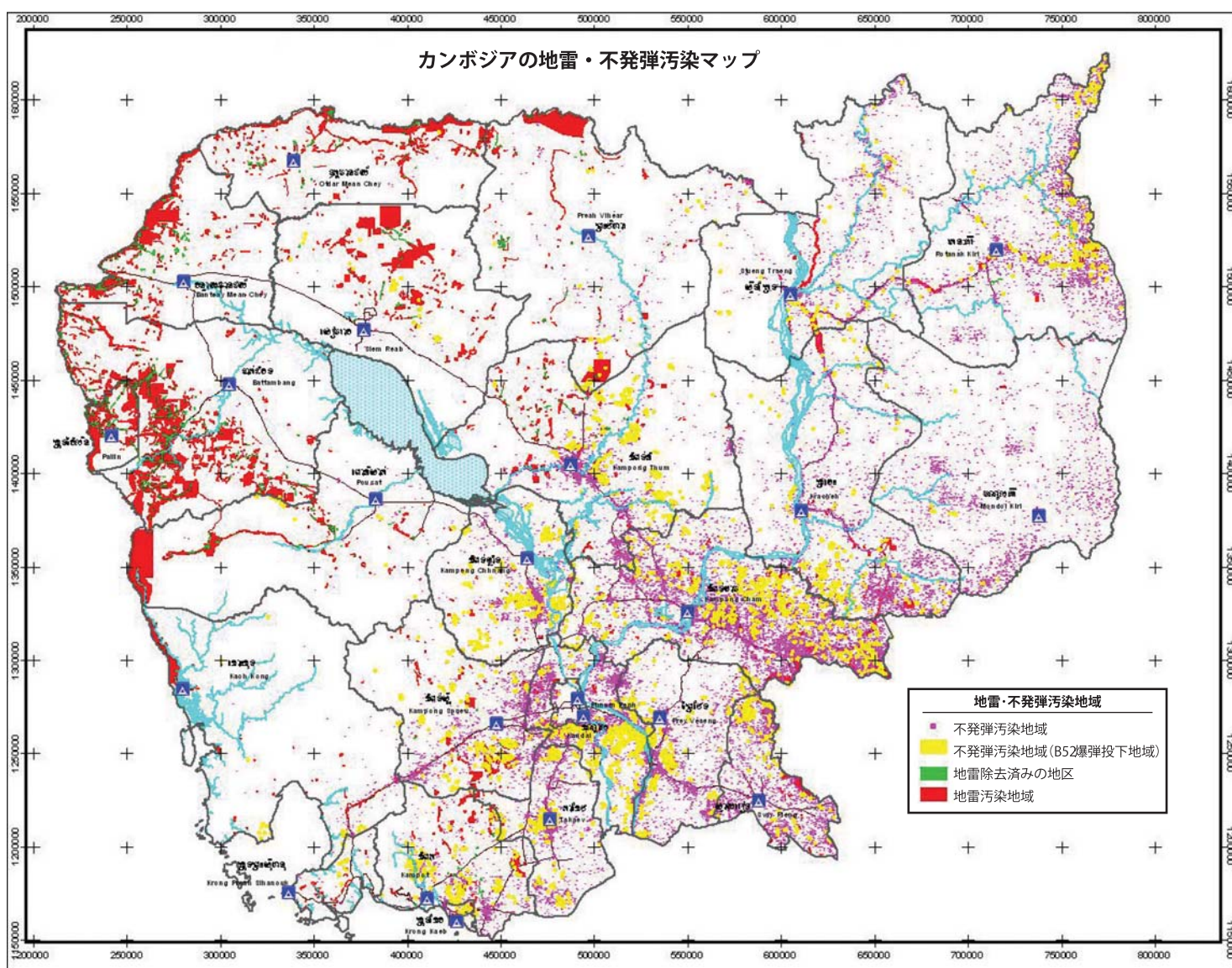
Mine Action ?

地雷・不発弾の被害

カンボジアは、ベトナム戦争とその後約20年間続いた内戦の結果、世界でも有数の地雷、不発弾の被害国となってしまいました。400万個～600万個といわれる地雷、240万個以上の不発弾。赤十字の統計によれば、1979年から2006年までの地雷・不発弾による被害者は、約6万人に達しています。

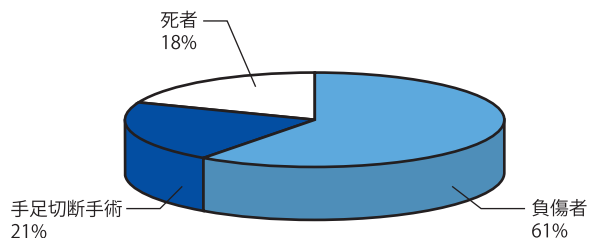
しかし被害者数の推移をみると、1990年代に年間数千人に上っていた被害者数は、2000年以降800人台で推移し、2006年には450人にまで減少しました。これは、国家政策としての地雷・不発弾の除去が進んでいることや、危険回避のための啓蒙活動が定着してきた結果であると考えられます。しかし、今なお毎年数百人の人々が犠牲になっているのは事実です。

近年の被害状況の内容を見てみると、被害者の18%が死亡、61%が負傷、21%が手足の切断手術を余儀なくされています。また、男女比では、大人・子供を含めて男性が被害者の85%以上を占めています。一方、被害場所から見ると70%の人々が村内や農地で犠牲にあっています。地雷の場合、半数以上が農作業やそれに伴う移動中の事故によるもので、不発弾の場合には、何らかの形で手に触れたことによって事故にあっています。近年では、地雷よりも不発弾による被害が多くなっています。その理由のひとつは、発見された不発弾が鉄くずとして高値で売買できるからなのです。

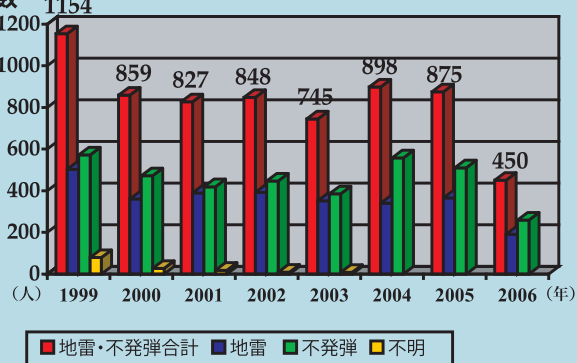


被害状況

Jan 2004-Dec 2006



被害者数



カンボジアの取り組み

カンボジアにおける地雷および不発弾の処理活動は、1991年のパリ和平協定後、間もなくカンボジア入りした UNTAC(国連カンボジア暫定統治機構)によって地雷除去訓練所が設置されたことに始まります。当時は早くカンボジア人の地雷除去員(デマイナー)を養成することが急務でした。この黎明期にいち早く支援を開始したのが、難民支援を目的とした UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)のほか、現在でもカンボジアで活躍している国際 NGO Halo Trust と Handicap International、続いて MAG (Mine Advisory Group)、NPA (Norwegian People's Aid) などでした。その後、1994年幾つかの国が支援を表明し、UNDP(国連開発計画)が信託基金を設置することによって持続的な支援が可能となりました。

現在、カンボジアで地雷・不発弾の除去活動を行っている主な機関は、政府機関である CMAC のほか、カンボジア軍、Halo Trust、MAG

です。カンボジア軍を除く各機関は、各国、その他の国際 NGO から活動資金の協力を受けています。

また、これらの除去機関の活動を管理、監督しているのが CMAA (Cambodian Mine Action and Victim Assistance Authority: カンボジア地雷対策・被害者救済庁) です。地方の各村落、郡から得た地雷・不発弾の情報をもとに、各州が優先順位を取りまとめて CMAA に提出し、翌年度の計画、すなわち各除去機関の活動地区・面積などが決定されます。

CMAC は、カナダの支援により 2000 年から 2001 年にかけて、全国的な地雷・不発弾の汚染・影響調査 (National Level One Survey) を実施し、コミュニティレベルにおける地雷や不発弾の汚染状況や社会経済的な影響を調査しました。その成果は、全国地雷・不発弾汚染マップとして、優先順位の検討を含めた国レベルの計画立案のために利用されています。



カンボジア軍



Halo Trust



MAG

対人地雷全面禁止への世界の取り組み

無差別に一般の人間が被害を受けている悪魔の兵器＝「対人地雷」を廃絶しようと、1992年、欧米の NGO が対人地雷全面禁止に向けたキャンペーン、ICBL (International Campaign to Ban Landmines: 地雷禁止国際キャンペーン) を立ち上げました。その後、各国政府機関を巻き込みながら多くの国際会議を経て、1997年 12月、ついに対人地雷全面禁止条約(「オタワ条約」)が調印され、

122カ国がこれに署名しました。ICBL 及びコーディネーターのジョディ・ウィリアムズ氏は、この功績により同年ノーベル平和賞を受賞しました。

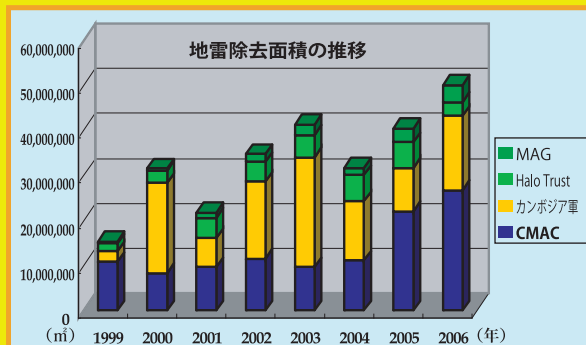
現在、日本を含め 150 数カ国が批准していますが、未加入国はアメリカ、中国、ロシアなどまだ 40 カ国以上あり、今なお対人地雷を製造している国が 10 数カ国あります。

全国地雷・不発弾汚染調査

汚染された村	: 6,416カ村 (カンボジア全村の46.1%)
汚染面積	: 4,544 km ²
危険な環境にある人口	: 約 518 万人 (カンボジア人口の45.2%)
不発弾処理が必要な場所	: 38,408カ所

1992年に開始されたカンボジアの地雷・不発弾対策は、現在も CMAC ほか 3つの地雷除去機関によって続けられており、過去 14 年間で地雷・不発弾汚染地域の 15% 程度を除去したと推計されています。

カンボジアは、10年以上の地雷対策の経験をもとに、世界の地雷問題を扱う国連機関や国際機関の活動にも積極的に関わっています。2006年には、内戦が終結したアフリカの地雷汚染大国、スーダン共和国に、135名の地雷除去隊員を派遣しています。



What is

C 1992年以来、唯一の政府機関として、
カンボジアの地雷除去活動を牽引している。

M
A
C
?



CMAC本部(プノンペン)

CMAC (Cambodian Mine Action Centre:カンボジア地雷対策センター)は、もともとは1992年6月、UNTAC内に地雷除去訓練所として設置され、翌1993年11、UNTACから権限委譲されてカンボジア政府の独立機関となりました。現在では首相直轄の政府機関として、本部を首都プノンペンに置くほか、5つの地雷除去支部事務所 (Demining Unit)、東部不発弾処理地域事務所 (コンボン・チャム)、研修センター (コンボン・チュナン)、研修・研究開発センター (シェムリアップ)、中央整備工場 (バットアンバン) から成ります。予算的には毎年約10億円規模の活動をしていますが、その90%以上が国連機関、各国政府、国際NGOを中心とした援助により賄われています。

スタッフ数は約2,200名で、その大部分が各地方に配置された地雷除去支部事務所に所属し、地雷・不発弾除去を中心とした現場で働く作業員です。CMACの使命は、「人道的・開発事業のための地雷対策」です。そして、その最も基本的な活動は以下の4つです。

地雷・不発弾の危険回避教育

地雷情報の収集・調査

地雷・不発弾の処理

地雷除去に関する訓練